

# かていがくしゅうのてびき(1ねんせい)

新治学園義務教育学校

◆しゅくだいもかていがくしゅうにはいります。

## 1 かていがくしゅうのポイント

- いつもきまったばしょで、きまったじかんにがくしゅうしよう。
- まい日10ぷん(がくねん×10ぷん)いじょうやれるようにしよう。
- テレビをけしてしゅう中してやろう。
- いいしせいでがくしゅうし、さいごまでていねいにかこう。

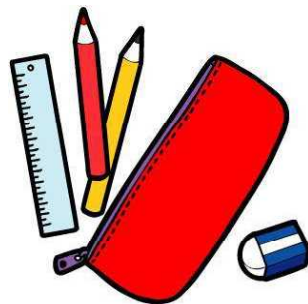
## 2 きをつけること

### (1) 音どく

- ① できるだけ人にきいてもらう。よめないもじをなくし、すらすらよめるようにしよう。
- ② はじめてよむときもひとりよみのときも、口をはっきりあけて、きもちをこめてよもう。

### (2) けいさんドリル

- ① ドリルノートにやる。
- ② おうちの人にまるをつけてもらい、まちがえたところはなおす。なおすときは、けしごむでけさずに、あたらしく書き、**あお**でまるをつけてもらう。
- ③ おわったらチェックひょうにチェックする。



### (3) かん字ドリルとかん字れんしゅう

かん字ドリルにかいてあるばんごうのページを、かんじノートにやる。

◆かんじは、ただしいかきじゅんで、とがったえんぴつをつかい、じぶんのさいこうのじでかこう。

### (4) テストなおし

かえされたテストで、がっこうでやりなおしたところをもう一どやってみよう。

### (5) どくしよ

- ① じぶんのすきな本・よみやすい本からよもう。
- ② たくさんよめばよむほど、よむスピードもアップする。

### (6) にっき・さく文

- ① かきたいことがみつかったときにかこう。
  - ◆ おはなしした文に「」(かぎ), 「、」(てん) や「。」(まる) もわすれずにかこう。
  - ◆ 文の中で、ならったかんじやかたかなはつかおう。

# かてい学しゅうの手びき(2年生)

新治学園義務教育学校

## 1 かてい学しゅうのポイント

- 毎日20分(学年×10分)い上やれるようにしよう。
- テレビをけして、みのまわりをかたづけて、しゅう中してやろう。
- いいせいで学しゅうし、文字もさいごまでていねいに書こう。



## 2 かてい学しゅうのすすめ方

### (1) 音読

- ① おうちの人に聞いてもらおう。読めない文字をなくし、すらすら読めるようにしよう。
- ② 口を大きくあけて、ようすを思いうかべながらゆっくり読もう。

### (2) けいさんドリル

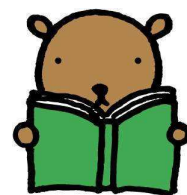
- ① こたえあわせは、おわったあとにおうちの人にやってもらいましょう。こたえ合わせは、すう字だけでなく、きごうやたんいも正しく見よう。
- ② できなかったもんだいは、かならずやりなおそう。まちがいは、けしゴムでけさずに、青でやりなおそう。2かい、くりかえそう。
- ③ わからなかったもんだいは、かならず、そのままにしないで、やりかたをおうちの人や先生にきいてやりましょう。こたえを見て、うつしてはいけません。

### (3) かん字ドリル

- ① 読みかたとひつじゅんは、はじめにしっかりとしかめよう。ひつじゅんは、「1, 2, 3・・・」とじゅんばんをいいながら書くとよい。
- ② なぞり書きで、字のかたちとひつじゅんをしっかりとおぼえよう。
- ③ はね、止め、はらいに気をつけて、ていねいに書こう。
- ④ 2かい、くりかえしてノートにれんしゅうをしよう。まちがえたかん字は、かならずなおして、もう一どれんしゅうしよう。

### (4) 読書

- ① じぶんのすきな本・読みやすい本から読もう。
- ② すきな本は、友だちにもすすめよう。
- ③ おすすめの本にも、チャレンジしよう。



### (5) 日記

- ① 学校やいえでのできごとの中から、したことやおもったことを書こう。
- ② ならったかん字は、かならずかん字で書こう。
- ③ げんこうようしのつかいかたにも、気をつけよう。

### (6) 九九 (2学きに学しゅうします。それからやりましょう。)

- ① 1のდანから9のდანまで、大きな声ですらすらとなえよう。
- ② 九九カードをつかったり、おうちの人に出してもらったりして、ばらばらにもちょうせんしよう。

### (7) じしゅ学習メニュー

- ①音読      ②読書      ③ドリルのくり返し      ③日記
- ④もんだいしゅう      ⑤テストのまちがいなおし      など

# 家庭学習の手引き（第3学年）

新治学園義務教育学校

## 1 家庭学習（自主学習）を進めるにあたって

- 計画を立て、決まった時間に学習する習慣（しゅうかん）をつけましょう。
- 30分（学年×10分、宿題＋自主学習）以上の時間を毎日やりましょう。
- 勉強するときは、テレビを消して集中してやりましょう。
- 正しい姿勢（しせい）で学習し、文字も最後までていねいに書きましょう。

## 2 自主学習の内容（以下の参考<sup>さんこう</sup>にできることを工夫しよう）

### (1) 音読

- ① 国語の教科書を中心に行う。かくたんげんの最初にはかならず音読を行う。
  - ② 短い文章は暗唱できるようにする。
  - ③ 読めない字をなくし、すらすら読めるようになったら、感情<sup>かんじょう</sup>をこめながらさらにいい朗読（ろうどく）をめざす。
- ★ 教科書以外の詩や物語、言葉遊びなどを読んだりおぼえたりしても楽しい！

### (2) 計算練習（計算ドリル）

- ① 自分でといた後、答え合わせをして、できなかった問題は番号にしるし（/）を付けておこう。
- ② できなかった問題は、必ずやり直そう。まちがいは消しゴムで消さずにやり直して、青丸をつけよう。
- ③ 分からなかった問題は、必ずそのままにしないで、やり方をお家の人や先生に聞こう。答えを見て写してはいけません。

### (3) 漢字練習（漢字ドリル）

- ① ドリルで読み方と書きじゅんを確かめ、読みがなをつけて正確<sup>せいかく</sup>に漢字ノートに書く。
- ② 必ず熟語（じゅくご）の形または送りがなをつけた形で練習する。
- ③ とがったえんぴつを使い、時間をかけてていねいに書く。まちがえた漢字は、その都度<sup>つど</sup>直してれん習し直す。

### (4) ふく習・テスト勉強

- ① 教科書やじゅぎょうで書いたノート、じゅぎょうや宿題でやったプリントを見直したり、ノートにまとめたりする。  
算数は、教科書の問題をもう一度やってみるとよい。
- ★ そのためにはノートは後で見てもわかるよういつでも「ていねいに・見やすく」書く。
- ★ 返されたプリントは、大切にしておく。
- ② 自分でやってみたい問題集を用意してやってもよい。
  - ③ まとめめのテストの時には今までやったテストを見直す。または、ノートに問題を写してもう一度やってみる。（まちがったところだけでもOK）
  - ④ eライブラリを使って、国語・算数・理科・社会のふく習をしよう。  
たんげんの終わりやテスト前に苦手な所を中心に取り組んでみよう。

### (5) テスト直し

- まちがえたところを自力<sup>じりき</sup>でやり直し、どうしても分からない問題は先生や友だちに聞き解決（かいけつ）しておく。
- ★ まちがえた問題をノートに書き写して、もう一度やり直してみる。（せん用のノートをつくると、見直しがしやすい。）

### (6) 言葉の意味しらべ

- 教科書の物語やせつ明文を読んで、意味のわからなかった言葉を国語じてんでしらべて、意味をノートに書く。

### (7) しらべ学習

- ① 理科や社会で学習したことで、もっと知りたい・しらべてみたいと思うことを本やインターネットでしらべる。

### (8) 作文・日記

- ① 書きたいことをのがさずに書く。ありのままをかざらせずに書けるのがよい。

### (9) 読書

- ① 自分の好きな本・読みやすい本から読もう。
- ② 読書記録（きろく）カードに記入し、1年間で50冊以上をめざそう。



# 家庭学習の手引き（第4学年）

新治学園義務教育学校

## 1 家庭学習（自主学習）を進めるにあたって

- 計画を立て、決まった時間に学習する習かんをつけましょう。
- 40分（学年×10分、宿題＋自主学習）以上の時間を毎日やりましょう。
- 勉強するときは、テレビを消して集中してやりましょう。
- 正しい姿勢（しせい）で学習し、文字も最後までていねいに書きましょう。

## 2 自主学習の内容（以下を参考にできることを工夫しよう）

### （1）音読

- ① 国語の教科書を中心に行う。かく単元の最初には必ず音読を行う。
- ② 短い文章は暗唱できるようにする。
- ③ 読めない字をなくし、すらすら読めるようになったら、感情をこめながらさらにいい朗読をめざす。

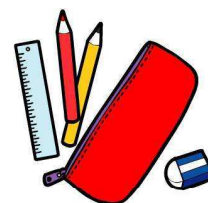
★ 教科書以外の詩や物語、言葉遊びなどを読んだり覚えたりしても楽しい！

### （2）計算練習（計算ドリル）

- ① 自分で解いた後、答え合わせをして、できなかった問題は番号に印を付けておこう。
- ② できなかった問題は、必ずやり直そう。まちがいは消しゴムで消さずにやり直して、青丸をつけよう。
- ③ 分からなかった問題は、かならずそのままにしないで、やり方をお家の人や先生に聞こう。答えを見て写してはいけません。

### （3）漢字練習（漢字ドリル）

- ① 読み方と書き順を確かめ、読みがなをつけて正確に漢字ノートに書く。
- ② 必ずじゅく語の形、または送りがなをつけた形で練習する。
- ③ とがったえんぴつを使い、時間をかけてていねいに書く。間違えた漢字は、そのつど直して練習し直す。



### （4）復習・テスト勉強

- ① 教科書やじゅ業で書いたノート、じゅ業や宿題でやったプリントを見直したり、ノートにまとめたりする。算数は、教科書の問題をもう一度やってみるとよい。
- ★ そのためにはノートは後で見てもわかるようにいつでも「ていねいに・見やすく」書く。
- ★ 返されたプリントは、大切にしておく。
- ② 自分でやってみたい問題集を用意してやってもよい。
- ③ まとめのテストの時には今までやったテストを見直す。または、ノートに問題を写してもう一度やってみる。（まちがったところだけでもOK）
- ④ eライブラリのドリル学習を活用し、テストはんいの内容を復習する。

### （5）意味調べ

- ① 意味の分かりにくい言葉をノートに書き出す。
- ② 辞書を引き、文脈にあった意味を選んで書く。

### （6）テスト直し

- ① 間違えたところを自力でやり直し、どうしても分からない問題は先生や友達に聞き、解決しておく。
- ★ まちがえた問題をノートに書き写して、もう一度やり直してみる。（せん用のノートをつくと、見直しがしやすい。）

### （7）社会科・理科の調べ学習

- ① 調べようとしている問題をはっきりさせ、教科書や資料集、参考書や地図、百科事典などで関係のあるところをさがす。
- ② インターネットや家族へのインタビューなどでも資料を集め、ノートにまとめる。

### （8）作文・日記

- ① 毎日少しでもその日にあったことや思ったこと、感じたことを書く習かんをつけよう。
- ② 書くことになれてきたら、内容や書き出し、表現方法を工夫してみよう。（会話、音、思ったこと、時間、動作など）

### （9）読書

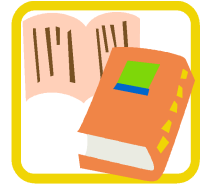
- ① 自分の好きな本・読みやすい本から読もう。
- ② 読書記録カードに記入し、1年間で50冊の記録を目指そう。

# 家庭学習の手引き(第5学年)

新治学園義務教育学校

## 1 家庭学習(自主学習)を進めるにあたって

- 計画を立て、決まった時間に学習する習慣をつけましょう。
- 60分以上の家庭学習(宿題+自主学習)をすすめましょう。
- 問題集やドリルなども用意し、自分にあった学習法を見つけましょう。
- 課題テストに合わせて、テスト勉強を進めましょう。
- 学習の時間は、できるだけ集中できる環境作りをしましょう。
- eライブラリを活用しましょう。



## 2 自主学習の内容(以下を参考にできることを工夫しよう)

### (1) 漢字練習 ☆反復学習が基本!繰り返し練習しましょう

- ① ドリルで読み方と書き順を確かめ、読み仮名をつけて正確に漢字ノートに書く。
- ② 必ず熟語の形、または送りがなをつけた形で練習する。同じ言葉だけで練習しない。
- ③ 一つの漢字でたくさんの使い方を調べて練習するようになる。
- ④ はじめに送りがなを書いておき、テスト方式で練習する。
- ⑤ とがった鉛筆を使い、時間をかけて丁寧に書く。

### (2) 計算練習(計算ドリル)

- ① 計算ドリルは自分で解いた後、答え合わせをして、できなかった問題はドリルに印を付けてチェックをしておき、もう一度やり直す。
- ② 授業の復習として、教科書の問題をノートにやり直す。
- ③ 授業で学習したことを、もう一度自分のまとめ方で復習する。
- ④ 応用問題、文章問題にチャレンジする。
- ⑤ テストやプリントの後、間違えた問題はもう一度ノートに問題を書き写し、やり直してみる。

### (3) 音読

- ① 国語の教科書を中心に行う。各単元の最初には必ず音読を行う。(宿題でなくても)
- ② 短い文章は暗唱できるようにする。
- ③ すらすら読めるようになったら、聞く人をひきつけられるように感情をこめて読む。

### (4) 意味調べ

- ① 教科書や新聞、今読んでいる本などから、意味のわかりにくい言葉をノートに書き写す。
- ② 辞書を引き、文脈にあった意味を選んで書く。

### (5) 視写

- ① 教科書や新聞、今読んでいる本などをノートに書き写す。
- ② 丁寧な字で、正確に書き写す。時間を計って、どの位の時間でどの位の量が書けるか確認する。

### (6) テスト直し

- ① 間違えたところを自力でやり直す。どうしても分からないところは先生や友だちに聞いて解決しておく。
  - ② なぜ間違えたのか、自分なりにノートにまとめ直してみる。
- ★ 返されたプリントは、大切にしておく。

### (7) 興味を持ったことを深く調べる学習

- ① 教科書や資料集、インタビューやインターネットなど、たくさんの方法で調べ、調べて分かったことを項目立てでまとめる。
- ② 調べて分かったことは、ノートにイラストや表などを使ってわかりやすくまとめる。

### (8) 読書、新聞

- ① 読書の習慣を身に付け、週に1冊程度の読書をしよう。
- ② 1年間で50冊の記録を目指そう。
- ③ 新聞を読むことだけでも十分学習になる。切り抜きをノートにはって、自分の感想を書き込むことも良い。



### (9) 作文・日記

- ① 文章を書くことは力になる。あまり気負わずに、毎日少しでもその日にあったことや思ったこと、感じたことを書く習慣をつけよう。(日付を書く、事実だけでなく自分の考えも入れて、漢字を50個以上使って)
- ② 書くことに慣れてきたら、内容や書き出し、表現方法を工夫してみよう。(書き出しの工夫→ 会話、音、思ったこと、様子、時間、動作、強調、回想…など)

### (10) 創作文・詩・俳句短歌・言葉遊び・ことわざ・四字熟語など(豊かな表現力をみにつけよう!)

- ① 文を創作したり(小説家気分)、詩や俳句などで季節や感じたことなどを表現する。
- ② 折句、なぞかけ、早口ことばなどを音読する。
- ③ ことわざや四字熟語の意味調べやそれを使った短文作りをする。

# 家庭学習の手引き(第6学年)

新治学園義務教育学校

## 1 家庭学習(自主学習)を進めるにあたって

- 計画を立て、決まった時間に学習する習慣をつけましょう。
- 70分以上の家庭学習(宿題+自主学習)をすすめましょう。
- 問題集やドリルなども用意し、自分にあった学習法を見つけましょう。
- 課題テストに合わせて、テスト勉強を進めましょう。
- 学習の時間は、集中できる環境作りをしましょう。
- ながら学習は、集中できないのでやめましょう。
- eライブラリを活用しましょう。



## 2 自主学習の内容(以下を参考にできることを工夫しよう)

### (1) 漢字練習 ☆反復学習が基本!繰り返し練習しましょう

- ① ドリルで読み方と書き順を確かめ、読み仮名をつけて正確に漢字ノートに書く。
- ② 必ず熟語の形、または送りがなをつけた形で練習する。同じ言葉だけで練習しない。
- ③ 一つの漢字でたくさんの使い方を調べて練習するようにする。
- ④ はじめに送りがなを書いておき、テスト方式で練習する。
- ⑤ とがった鉛筆を使い、時間をかけて丁寧に書く。(はね、とめ、はらい)

### (2) 計算練習(計算ドリル)

- ① 計算ドリルは自分で解いた後、答え合わせをして、できなかった問題は番号に印を付けておき、あとで何回もやり直す。
- ② 授業の復習として、教科書の問題をノートにやり直す。
- ③ 授業で学習したことを、もう一度自分のまとめ方で復習する。
- ④ 応用問題、文章問題にチャレンジする。
- ⑤ テストやプリントの後、間違えた問題はもう一度ノートに問題を書き写し、やり直してみる。

### (3) 音読

- ① 国語の教科書を中心に行う。各単元の最初には必ず音読を行う。(宿題でなくても)
- ② 短い文章は暗唱できるようにする。
- ③ すらすら読めるようになったら、聞く人をひきつけられるように感情をこめて読む。

### (4) 意味調べ

- ① 教科書や新聞、今読んでいる本などから、意味のわかりにくい言葉をノートに書き写す。
- ② 辞書を引き、文脈にあった意味を選んで書く。

### (5) 視写

- ① 教科書や新聞、今読んでいる本などをノートに書き写す。
- ② 丁寧な字で、正確に書き写す。時間を計って、どの位の時間でどの位の量が書けるか確認する。

### (6) テスト直し

- ① 間違えたところを自力でやり直す。どうしても分からないところは先生や友だちに聞いて解決しておく。
- ② なぜ間違えたのか、自分なりにノートにまとめ直してみる。
- ★ 返されたプリントは、大切にしておく。

### (7) 興味を持ったことを深く調べる学習

- ① 教科書や資料集、インタビューやインターネットなど、たくさんの方法で調べ、調べて分かったことを項目立ててまとめる。
- ② 調べて分かったことは、ノートにイラストや表などを使ってわかりやすくまとめる。

### (8) 読書、新聞

- ① 読書の習慣を身に付け、週に1冊程度の読書をしよう。
- ② 1年間で50冊の記録を目指そう。
- ③ 新聞を読むことだけでも十分学習になる。切り抜きをノートにはって、自分の感想を書き込むことも良い。



### (9) 作文・日記

- ① 文章を書くことは力になります。あまり気負わずに、毎日少しでも書く習慣をつけましょう。(日付を書く、事実だけでなく自分の考えも入れて書く。)
- ② 書くことに慣れてきたら、内容や書き出し、表現方法を工夫してみよう。(書き出しの工夫→ 会話、音、思ったこと、様子、時間、動作、強調、回想…など)

### (10) 創作文・詩・俳句短歌・言葉遊び・ことわざ・四字熟語など(豊かな表現力を身につけよう!)

- ① 文を創作したり(小説家気分)、詩や俳句などで季節や感じたことなどを表現する。
- ② 折句、なぞかけ、早口ことばなどの音読をする。
- ③ ことわざや四字熟語の意味調べやそれを使った短文作りをする。